

発行 宮崎県東臼杵郡東郷町・編集 企画調整課 TEL(0982)69-3901
 〒883-0192 宮崎県東臼杵郡東郷町大字山陰丙1374番地
 印刷 (有)是沢印刷 日向市本町 TEL(0982)52-2567



閉町式（町旗を降納する小林町長と田代町議会議員）

まちのうごき

人口 4,854人(△11)
 男 2,252人(△4)
 女 2,602人(△7)
 世帯数 1,744戸(△2)

平成18年2月1日現在
 ()は対前月比

閉町式……………2～4ページ
 「とうごう」の思い出……………5ページ
 合併に伴うお知らせ……………6ページ
 保健だより……………7ページ
 まちのアルバム……………8～9ページ
 「とうごう」写真集……………10～11ページ
 牧水の歌解説……………12ページ

けふもまたこころの鉦をうち鳴らし
 うち鳴らしつつあくがれて行く
 牧水



東郷町閉町式

116年の歴史を刻んだ牧水のふるさと東郷町
希望あふれる未来に向かって



閉町のあいさつをする
小林町長

また、東郷町のあゆみのビデオが放映され、明治時代の議会の会議録、大正時代の街並みなど懐かしい写真、思い出に残る行事など、東郷町116年の歴史を振り返りました。

希望あふれる未来に向けて

牧水のふるさと東郷町 “閉町式”



2月19日(日)、明治22年東郷村が誕生してから116年の歴史に幕を閉じる東郷町閉町式が東郷町総合文化センターで、宮崎県知事をはじめ約500人の来賓、町民が参加し開催されました。

「町長あいさつ」

昭和の大合併から半世紀を経過し、歴史的な時代のうねりの中で平成の大合併という新たな局面を町民の皆さんとともに迎え、東郷町行政に終止符を打つこととなりました。本町の歩みを顧みますと、明治22年4月1日の市制及び、町村制施行に伴い、山陰村、八重原迫野内村、坪谷村、下三ヶ村が合併し、5月1日をもって東郷村となり、そして昭和44年の町制施行を経て116年の歴史に幕が降りることになりました。

今日まで、町民の皆様の大変な期待のもとには流れ、大変厳しい財政運営を経験しながらも、本町発展の歩みを確かなものとするため、町民ニーズに応え、「21世紀にはほたく牧水のふるさとづくり」を目標とした「住みやすく魅力あふれるまち」「豊かな心と文化を育むまち」「創造力と活力に満ちたまち」「機能的で人にやさしいまち」の実現に向けて堅実に一歩一歩踏み進めてきました。

第一部

山本助役の開会のあいさつの後、参加者全員による国歌斉唱、主催者である小林町長、田代町議会議長のあいさつ、来賓として出席



「合併のメッセージ」7人の児童・生徒

「合併のメッセージ」として町内の小・中学生7人による作文朗読がありました。子供の視点からみた、東郷町への思いや、将来に向けて

第二部



安藤県知事

の夢、東郷町の自然・文化・人がらを愛する心が素直に表現されていて参加者を感動させる素晴らしい発表でした。続いて、東郷町婦人連絡協議会の皆さんによる、東郷町民音頭の踊り納め、また、町の広報誌をテーマに音訳し、個人や施設に届けているボランティアグループ「カナリア会」を中心とした皆さんによる、町民歌の歌い納めが行われました。

式の後には、町民歌のピアノ伴奏のなか、昭和49年に、東郷町の「と」を凶案化し、飛ぶ鳥をイメージして作られた、32年間、私たちのシンボルとして、様々な場所で慣れ親しんできた町旗が、小林町長、田代町議会議長の手によって降納され、116年の歴史に幕が降ろされました。



東郷音頭踊り納め。東郷町婦人連絡協議会の皆さん



「議長あいさつ」



文化の香る牧水のふるさと東郷の地に、私たちが愛着を持ち、先人が築き上げた豊かな自然と、住むことに誇りと感じた東郷町が、2月25日、日向市に編入合併する運びとなりました。

本町の歩みを振り返りみますと、明治22年町村制施行に伴い山陰村、八重原迫野内村、坪谷村、下三ヶ村が合併して「東郷村」が誕生しました。6年、昭和44年、町制施行により「東郷町」が誕生しました。以来36年間、幾多の困難を乗り越え、豊かな水のふるさと耳川、そして太平洋を望む豊かな風土、多様な文化を育みながら、住みよい町を築いてまいりました。

時あたかも、地方分権の流れと共に、市町村合併の気運が高まり、地方公共団体の自己決定権、自己責任の増加や、財政事情、事務事業の簡素化を鑑み、足腰の強い自治体を創っていくためには、合併は避けて通ることの出来ない最も重要な課題となりました。

「議長あいさつ」

本町の発展の源には、多くの諸先輩方のたゆまぬ努力と知恵の結晶があります。そして、町民の皆様方の多大なるご理解とご協力があったから築き得たものであり、感謝とお礼を申し上げます。

東郷町の合併の動きは、平成13年7月の日向東臼杵南部合併研究会から本格的に始まり、平成15年1月、日向市・門川町・東郷町の任意合併協議会を設置、同年12月には、日向市・東郷町での法定合併協議会を設立し、今日に至っております。

長年栄えてきた「東郷町」と言う「名」が2月25日をもって、歴史に刻まれます。最後の町議会議長として、喜びと同時に一抹の寂しさを覚え、感無量であります。

今、東郷町民は、入郷四町村の要として、地域発展の推進役としての役割を果たしつつ、将来への希望を持ち、生き生きとした活力を発揮し、県北の文化の町として、今よりもっとすばらしい郷土になっていくことを願い、新日向市の発展に尽力することを誓っております。

我がふるさと「とうごう」に思いを寄せて

合併に至るまで百般の議論がなされたことであろうし、関係者のお骨折りを多とすあつて東郷町の個性を失うようなことがあつてはならない。個性とは、冠山の勇姿、尾鈴

梅檀の木は見ている
東京部 歌津文男 (追野内出身)

私は昭和30年3月、東郷中学校を卒業(第8回卒業生138名)すると日向市駅前の寿旅館兼食堂に住込みしながら4月に当時の富島高校の定時制に入学した。今でこそ日向市までは30分とかららない隣町であるが、伊勢が浜へ遠足に行くのに砂利道を歩いた時代で、まるで異郷に旅立つような心細さを感じたものである。その東郷町と日向市が合併すると聞き感慨深いものがある。



東郷小学校の「梅檀の木」



昭和30年当時の現日向市駅前通り

連山に象徴される風光明媚な自然であり、もう一つは細やかな東郷町民の思いやり、やさしさに見る人間性の豊かさである。

10数年前、帰省した折、東郷小学校のグラウンドに見覚えのある梅檀の木を発見した。思わず走り寄って両手で抱くように幹に頬づりした。すると様々な思いが奔流のように押し寄せて胸があつくなくなったのを覚えている。生家のある追野内から坂道を登り峠を越え、登校中に草履の鼻緒が切れ、霜柱の立つ泥道をハダシで歩いたこと。高熱を出して早退する薄いボロ服姿の自分に、そつと防寒服を貸して下さった恩師のこと。終戦から10年たつても東郷村は社会資本の整備が遅れ、みな生活に終われ、道が舗装されるなど思いもよらない時代。しかし村をあげて必死で働き向上心を持って生活改善と郷土

清流耳川の思い出

横浜市 松澤伸能 (小野田出身)

夏の間は子供たちの天国だった。学校から帰ると「箱メガネ」と「チョン掛け竿」を持って耳川に鮎かけに行った。胸位までの水深の浅い所で箱メガネの中に首を突き込んで小さな鮎が石の苔を食べるために右から左から体を石にぶつけてくるのを狙って竿の先の釣針にひっかけるのだが、簡単には獲れなかった。「スイツキ」という魚もいた。その名の通り石に吸い付きながら移動する魚なので吸い付いている所を狙うと簡単に獲れたし、



耳川

かば焼きにすると見かけによらず美味しかった。

川の中州と堤防の間には「流れるプール」になっていて子供たちの水泳場だった。中州から堤防へ。堤防から中州へと何度も往復して泳いで渡った。流れに身を任せて泳ぐと本当に気持ちよかったです。

耳川は底まで澄み切ったきれいな川だった。「鮎」「鯉」「鯛」「イダ」「ハエ」等の魚、「海老」「蟹」「鰻」等々無数の水生動物で賑やかだった。堤防の上から見ると、それらの魚の鱗がキラキラ光り魚影がはつきり判る程だった。魚釣りをすると餌に食いつくのがはつきり見えた。鰻は竹で編んだ「うなぎ籠」で一年中獲れたし、秋口の台風で水が濁って下つくと夜堤防を伝わって下つて



※「町報とうごう」では、沢山のニュースを讀ませて頂き遠くにも山陰の現状がすぐ判りありがたい読み物でした。本当にありがとうございます。

久しぶりに帰って見ると山陰はすっかり変わっていた。新装の家が並び道はきれいに舗装されていた。ただ冠嶽だけは昔のままの雄大な姿でそびえていた。しかし耳川は人影もなく魚影も少なかった。そして僕は夢想した。近い将来汚された耳川の水が科学の力で浄化されきれいな水に蘇り多くの魚が住むようになる事を。

いつの日か四国の四万十川に並ぶ「清流耳川」が復活し「新生東郷町」のシンボルになる事を願わずにはいられなかった。

くる蟹が面白いように網で獲れた。それほど耳川は大人にとつても子供にとつても、なくてはならぬ存在であり、自然を味わい自然を楽しむ絶好の場所だった。



町民歌の歌い納め。カナリア会を中心とした皆さん



旗納め小林町長と田代町議会議長

第三部

会場を中央公民館に移し、レセプションが行われました。

オープニングは山陰保育園児12名による「ちびっこ太鼓」。太鼓の音色が「明日への希望」となって届くような力いっぱいの演奏でした。

続いて、富乃露酒造店の焼酎「あくがれ」の樽酒で鏡開きが行われ、それぞれの思いで歓談されていました。



「あくがれ」鏡開き



「ちびっこ太鼓」山陰保育園児

「閉庁式」

2月24日(金)、午後4時30分から議場において、町職員が参加して東郷町役場閉庁式が行われました。

小林町長が「先人達の血と汗で築かれた116年の輝く歴史によいよ終わりを告げる時間になりました。この国が発展するための止むを得ない手段の一つとしての合併であるとしても、自らの手で旗を降ろす事がどれだけ辛いことか、今もつて何とも説明のつかない苦しい思いです。一日も早く、



名盤を取り外す小林町長、山本助役

日向市との一体化を推進して、新日向市の発展に、それぞれの職を通して貢献していくことが私どもに与えられた使命であります。これからも一致協力して、わがふるさと東郷の発展にこれまでに以上の力を結集して、ふるさとの人達の期待に応えてください。」と閉庁にあたってのあいさつがありました。

その後、役場玄関で「東郷町役場」の名盤を取り外し、掲揚台に上がっていた町旗を小林町長、山本助役、都甲教育長の手で降ろし閉庁となりました。



退任する山本助役、小林町長、都甲教育長

3月地区巡回健康相談

期 日	会 場	受付時間
3日(金)	大工野集落センター	9:00~ 9:30
	鶴野内コミュニティセンター	11:00~11:30
7日(火)	地 内 集 会 所	9:00~ 9:30
	迫野内地区多目的集会施設	11:15~11:30
10日(金)	東上コミュニティセンター	9:00~ 9:30
14日(火)	八重原高齢者プラザ	9:00~ 9:30
	羽坂地区コミュニティセンター	11:15~11:30
17日(金)	田 野 公 民 館	9:00~ 9:30
	稲葉野地区多目的集会施設	11:15~11:30
22日(水)	羽坂生活改善センター	9:00~ 9:30

3月の行事予定表

期 日	場 所	受付時間
リハビリ教室		
9日(木)	シルバーセンター	10:30
こころの健康 リフレクソロジー講座(第3回)		
9日(木)	やすらぎ館 2階	19:00
1歳6か月児健康診査		
15日(水)	やすらぎ館	13:30~14:00
2歳6か月児健康診査		
15日(水)	やすらぎ館	14:00~14:30
さくらんぼの会		
23日(木)	やすらぎ館	10:30
こころの健康 リフレクソロジー講座(第4回)		
23日(木)	やすらぎ館 2階	19:00

保健だより

やすらぎ館
yashiragikan

東郷町地域自治センター開所時間のお知らせ

8時30分から5時までとなります。

昼休みの窓口業務を始めました

取扱いのできる業務は下記のとおりです。

住民関係	税関係
<ul style="list-style-type: none"> ・住民票 ・戸籍の証明書 ・印鑑登録 ・印鑑証明 	<ul style="list-style-type: none"> ・課税証明 ・所得証明 ・納税証明 ・完納証明 ・軽自動車税納税証明 ・資産証明(名寄帳) ・無資産証明 ※各証明は現年度分のみ ・税収納事務(国保税含む)

食といのちの講演会

日 時 3月14日(火)
19:30~21:00

場 所 さくら館(道の駅 とうごう内)

講 師 宮崎県ジェイエイ食品開発研究所
農学博士 杉田 浩一

入場無料
※お誘い合わせの上お越しください!!

問合せ先 保健福祉課 電話69-3367

1人当たり医療費 (平成17年3月~平成17年9月) 単位:円

	東 郷 町		市町村平均
	1人当たり医療費	順位	
一 般	144,895	15	132,363
退 職	226,152	13	215,198
老 健	472,897	10	468,015
合 計	256,017	5	231,289

平成18年
全国山火事予防運動

実施時期 3月1日(水)~7日(火)までの7日間

標 語 「火の用心 森の恵みを 未来まで」

火災が発生しやすい気候になりました。火の取扱には十分注意しましょう。

また、野焼きやあぜ焼き等を行う場合は、10日前までに火入れ許可の申請を行ってください。

- 受付 東郷町地域自治センター 農林振興課
- 電話 69-3908

印鑑登録証の引換えが必要

旧東郷町で印鑑登録をされていた方については、日向市の印鑑登録証に引換える必要があります。お早めに手続きをお済ませください。

○持参してもらうもの

旧東郷町で発行された印鑑登録証と印鑑
※代理の方が来られる場合は、代理の方の印鑑と印鑑登録している方の印鑑が必要です。
※印鑑を持ってきてない場合は、運転免許証・健康保険証等で本人確認を行います。

○引換え場所

日向市役所 市民課
東郷町地域自治センター 住民課
美々津支所・岩脇支所・細島支所

○引換え手数料

無料

税等の口座振替を
されている皆さんへ

東郷町で税や住民使用料等の口座振替をされている方は、継続して口座振替となります。特に手続きの必要はありません。

短歌 尾鈴短歌会

合併の記念行事のウオーキング八十のわれば十キロ歩く 本多茂雄
海近き娘の住む町も雪降りて真白き庭に椿の花咲く 黒木ヒサ
木枯しは良き助つ人と千切の原賑はいて声のこだます 橋口忠孝
晩婚の社会に孫らは婚姻を決めて吾の心落ちつく 三浦園男
絶え間なきラッシュの車吾は止め深く礼しつ生徒みちびく 東村吉市
成人式の晴れの姿の孫娘見せたま母に赤飯供ふ 佐藤キヌ子
如月の冷たき風の荒れる夜は友の電話にひとときを過ごす 木村秋男
手の平で受けて育てし庭の花芽吹きてたのし花咲くを待つ 佐藤鈴子
とこしえの村の鎮めを祈りつつ初日の森に拍手を打つ 木村映一
あちらでの食の管理にずれのあり背骨入れて気にも止めず 岩木幸美
今年また倒れし梅の一枝に薄きピンクの花咲くはうれし 岩木富子
春を待つ心は楽しふくらみし白梅の蕾庭に謹めり 寺原八重子
久々に丘の公園を上りきて約束したること君に逢いたり 小山貞代
元氣よく木枯らしの中を帰りゆく生徒入試のころか家路へ急ぐ 若藤美智子

「若山喜志子全歌集」寄贈



1月30日(月)、第10回若山牧水賞授賞式出席の折、若山牧水の孫にあたる榎本蓮子さんが本町を訪問されました。
 その際、小林町長を訪問され、若山旅人編の大変貴重な歌集「若山喜志子全歌集」をご寄贈いただきました。



雌子牛優等賞首席
 福瀬 塩月秀幸さんと「ともえ号」

日向市との合併に伴い品評会等が日向市と合同で行われることになり、2月8日(水)東郷町畜産センターでの最後の3月期町子牛品評会が行われました。参加者は東郷町畜産センターの最後を飾るため日頃の調教の成果を発揮していました。



畜産だよりの

Information

インフォメーション

◎寺迫の新年英任さんより
 (ダイさん逝去)
 ◎日向市の海野二三子さんより
 (久さん逝去)



忌明けとして、次の方から町社会福祉協議会へ社会福祉のための善意が寄せられました。厚くお礼申し上げます(2月10日まで受付分)

国民健康保険税 10期
 介護保険料 10期

今月の納税等

※気軽に相談ください。

日時 3月15日(水)10時~15時
 場所 町社会福祉協議会
 相談員 岩見次夫氏

行政相談

※事前に予約が必要です
 申込電話番号 69-2209

法律相談

日時 3月15日(水)10時~15時
 場所 町社会福祉協議会
 相談員 岩佐郁子氏

氏名	年齢	住所
山口 和平	64歳	田野
黒木 セツノ	98歳	牧水園
黒田 濱子	82歳	田野
新名 ダイ	102歳	寺迫

死亡

ご冥福を祈ります

氏名	住所
海野 大輔	寺迫
山本 愛	寺迫

結婚

お幸せに

赤ちゃんの氏名	保護者	住所
海野 妃香	徳仁	寺迫

出生

おめでとう

戸籍だよりの

(1月届出分)

◎田野の山口シノブさんより
 (和乎さん逝去)
 ◎坪谷の稲田志朗さんより
 (ミツエさん逝去)
 ◎鶴野内の黒木幸男さんより
 (セツノさん逝去)
 ◎寺迫の黒木正人さんより
 (ミハルさん逝去)
 ※合併後も寄付金関係は、日向市社会福祉協議会東郷支所として今まで通り受け付けいたします。

宜野湾市との姉妹都市提携協定の解消調印



宜野湾市と本町は、太平洋戦争における戦局が日に日に不利になり、米軍の沖縄侵攻が間近に迫る中、宜野湾市から本町へ学童疎開が行われた縁で、昭和60年4月姉妹都市提携協定を締結しました。
 以来、児童の交流をはじめ、教育、文化、産業など親密な交流が図られ、相互の信頼と友情が培われてきましたが、本町の日向市との合併に伴い、1月18日(水)、宜野湾市で姉妹都市提携協定の解消の覚書を交わしました。
 この解消は、両市町の新たな出発と位置付け、未来永劫変わらぬ友情を誓い、児童を中心とした交流の継続を約束しました。

寺原照人さん(羽坂)に知事賞・宮崎県農業共済組合連合会長賞受賞

2月9日(木)、宮崎観光ホテルで開催された平成17年度宮崎県農産園芸特産物総合表彰式において、羽坂の寺原照人さんが良質・良食味米コンクール(早期水稲)の部で1等となり、知事賞と宮崎県農業共済組合連合会長賞の表彰を受けました。
 表彰式には、代理として息子さんの正二さんが出席しました。正二さんは、「父は普及センターや農協の指導どおりに栽培管理を行い、あとは水の管理を毎日ただけで特別なことはしていないのですが」と親子で戸惑いを表しながらも喜びを隠し切れない様子でした。



川越ヤスヨさん(仲深)が県知事賞を受賞!! 直野政一郎さん(福瀬)は銅賞を受賞!!



2月17日(金)宮崎市のイオン宮崎ショッピングセンターで開催されたみやざき「花の祭典2006」花き展示品評会において、スイートピーを栽培している仲深の川越ヤスヨさんが出品総数365点中最高位の「県知事賞」を受賞されました。
 川越さんは、「JA日向及び県東白杵南部農業改良普及センターの指導、JA日向スイートピー部の熱心な取り組みが評価されたものだと思います。」と喜びの声を聞かせてくれました。
 また、福瀬の直野政一郎さんも、同展示品評会において銅賞(品目・シキミ)を受賞されました。
 お二人とも、本当におめでとうございます!

ゴールデンゴーズ春季キャンプ「欽トレ」

2月7日(火)、欽ちゃんこと萩本欽一さんが監督を務める社会人野球のクラブチーム「茨木ゴールデンゴーズ」の選手が富乃露酒造店を訪れ焼酎の瓶詰、ラベル貼り作業などを行いました。午前8時30分から約1時間でしたが、欽ちゃんの指揮のもと各選手熱心に作業内容を聞き欽トレに励んでいました。



残していきたい「東郷町」の自然・文化・歴史



牧水生家



牧水祭 9月17日「牧水の命日」



小野田大谷 落差約25mの観音滝



福瀬神社にある世界に誇れる自慢のハナガカシ



牧水公園の牧水像



清流小丸川の花崗斑岩甌穴群(越表)



坪谷小学校 朝の光景「牧水の歌の朗詠」



牧水公園のツツジ



鶴野内白太鼓踊り



西城公園にある山陰百姓一揆 逃散三百年記念碑

表紙牧水のうたの解説

都甲 欣一

けふもまたこころの鉦をうち鳴らし
うち鳴らしつつあくがれて行く(海の声)

明治四十年、早稲田大学四年生の牧水は級友の土岐善磨、延岡中学校時代からの友人直井敬三と三人で東京を発って帰省の途に着いた。土岐善磨とは京都で、直井敬三とは神戸で別れた牧水は、一人中国路をたどり岡山から高梁、新見を経て、苦坂峠、そして二本松峠を越えた。

この時牧水は、二本松峠の茶屋に泊まり、東京の友人有本芳水に葉書を出しているが、その葉書に二首の歌が書かれてあり、「一首が『幾山河』でもう一首がこの『けふもまた』である。

歌の意味は「巡礼や遍路が鉦をうち鳴らしながら旅をするように、今日もまた、私もこころのなかの鉦をうち鳴らしうち鳴らしして、魂が何かにひかれていくように旅をしている。」

鉦をうち鳴らす巡礼や遍路の旅を子ども頃からあこがれていたことなどから、この歌を詠んだとも言われている。

牧水の「あくがれ」は、十代の時期は、広大な世界を象徴する「海」という自然であったと言われているが、「あくがれて旅する」牧水を思うとき、その対象は生涯を通じて自然であったと解されるのでは無からうか。

(「若山牧水全国歌碑集」、

伊藤一彦著「郷里の山河」、

大谷和子著「名歌即訳・若

山牧水」)



昭和25年5月に東郷村報として第1号を発行し55年、まちの情報をお届けしてまいりましたが、日向市との合併に伴い658号を持ちまして最終号となりました。3月号からは「広報ひゅうが」となります。また年4回「地域自治センターだより」を発行する予定です。

長い間、町報「とごう」をご愛読いただきありがとうございました。